

35 steps to the future

夢未来北海道・夢を実現する35の鍵

～北海道夢未来懇談会の活動と提言～

北海道開発局 開発監理部開発計画課
(北海道夢未来懇談会事務局)

北海道は、今、未来に向けての大きな変革の時期を迎えています。このような時期であるからこそ、しっかりと将来像を共有し、地域が一体となり連携・協働を進めていくことが必要であると考えています。こうした観点から北海道開発局では、おおむね20～30年後の北海道の中核を担うであろう若手の経済人・研究者にお集まりいただき、様々な視点から北海道の将来像を検討するための「北海道夢未来懇談会」を開催しました。

札幌での懇談会、道内各地で活躍されている方々による地域懇談会により、短期間ですが集中的な議論を行う一方、ホームページを通じ国民の方々から北海道の将来像に関する意見・提言を募集し、この度、「夢未来北海道～夢を実現する35の鍵～」として提言書を取りまとめました。本懇談会には、北海道庁、札幌市からも若手職員に参加していただき、産・学・官のバランスのとれた実りのある議論ができたのではないかと考えています。

北海道夢未来懇談会を企画した背景

今後の北海道を取り巻く環境は、人口減少が予想され、それに伴いこれまで拡大してきた経済規模の安定成長への変化、グローバル化の進展など、大きな変革の時期にあり、21世紀の北海道の将来像をイメージすることが難しい状況にあります。それ故、北海道の将来像について、北海道民の方々にビジョンが共有されていなく、また、そういった議論をしようという雰囲気もあまりなかったのではないかと認識に立ち、民間、地域の方々、行政などの各主体が北海道の長期的なビジョンを共有し、連携・協働を進めていくことが必要であると考えました。

このため、北海道開発局では、道民議論のきっかけとなることを期待して、20～30年後の北海道の中核を担うであろう若手の経済人・研究者・行政関係者（当局以外は北海道庁、札幌市の若手職員）にお集まりいただき、本年2月から6月まで隔週で計10回、様々な視点から北海道の将来像を

検討するための「北海道夢未来懇談会」を札幌において開催しました。

また、札幌以外の地域の方々も多様なビジョン、将来像をお持ちであろうと考え、全道10カ所それぞれの地域の若手有識者にお集まりいただき、地域の特性を踏まえた将来像に関する意見交換を行う「地域夢未来懇談会」を開催し、さらに意見の範囲を幅広いものとするため、北海道開発局のホームページを通じて国民の皆様から意見・提言をお寄せいただき、産・学・官のバランスのとれた実りのある議論を行いました。



懇談会のメンバー構成

「北海道夢未来懇談会」は、座長に田村亨室蘭工業大学教授を迎え、他の14名のメンバーとオブザーバーの行政関係者8名で構成され、「地域夢未来懇談会」は1カ所5～6名で合計57名の方に参加していただきました。

以下に「北海道夢未来懇談会」メンバーの方々と「地域夢未来懇談会」のメンバーの方々を紹介いたします。

「北海道夢未来懇談会」メンバー

座長

- 田村 亨 室蘭工業大学教授
アルヌー・クリストフ 光塩学園女子短期大学
フードプロデュース科学科長
市岡 浩子 札幌国際大学観光学部観光学科
助教授
高橋 清 北見工業大学土木開発工学科助教授
張 相律 (有)北海道チャイナワーク代表取締役
ロス・フィンドレー (有)ニセコアドベンチャー
センター代表取締役
藤原 達也 北海道産学官研究フォーラム事務局長
松田 一敬 北海道ベンチャーキャピタル(株)
代表取締役社長
松村 瑞哉 北海道電力(株)土木部副主幹
宮本 融 北海道大学公共政策大学院特任助教授
明円 直志 明円工業(株)代表取締役
山岸 加奈 ITAL都市建築研究所代表
北海道大学院工学研究科都市地域デザ
イン学研究室社会人博士課程
山田賢一郎 (株)リクルート北海道じゃらん企画課長
山本 光子 (株)電通北海道
マーケティング・プランナー
山本 康貴 北海道大学大学院農学研究科助教授

「地域夢未来懇談会」メンバー

【釧路】

- 岡田 浩 釧路公立大学経済学部助教授
栗林 定正 三ツ輪運輸(株)専務取締役
近藤 信治 (株)釧路丸水代表取締役副社長
白崎 義章 白崎建設(株)代表取締役社長
中園 桐代 釧路公立大学経済学部助教授
宮田 昌和 サンエス電気通信(株)代表取締役社長

【網走】

- 石堂 典秀 東京農業大学生物産学部講師
高橋 清 北見工業大学土木開発工学科助教授
谷井 貞夫 北見NPOサポートセンター理事長
船橋 賢二 船橋西川建設(株)代表取締役副社長
水谷 洋一 網走市議会議員

【函館】

- 岸 寛樹 (株)西武建設運輸代表取締役
齋藤 利仁 函館青年会議所副理事長
杉崎 芳子 東京理科大学長万部事務部事務長
西川 公人 北冷蔵(株)営業部企画課長
西野万里子 竹葉新葉亭若女将
原 一彰 本行寺副住職

【室蘭】

- 下々村光弘 苫小牧工業高等専門学校環境都市工学科
助教授
庄司 大 (有)牧家代表取締役
手塚 純一 プログレス日高副会長
平林 滋明 (株)平林紙店代表取締役社長
森 路子 フリー社会者

【小樽】

- 阿部 茂樹 寿都町漁業協同組合参事
井上 晃 (株)光合金製作所代表取締役社長
吉川 雅子 (有)エムズプランニング代表取締役
齋藤 一郎 小樽商科大学大学院商学研究科アントレ
プレナーシップ専攻・助教授
久末 智章 (株)アートクリエイト代表取締役
船場 英雄 (有)ふなば農場代表取締役、京極町議会
議員

【稚内】

- 石塚 英資 宗谷建設青年会会長
一戸 信哉 稚内北星学園大学情報メディア学部
助教授
岡部 和子 (株)ホテルおかべ代表取締役
杉川 毅 稚内観光協会常務理事
高谷 邦彦 NPO法人映像コミュニティ・ムーブユー
理事長

【留萌】

- 横澤 輝樹 稚内みなと・まちづくり懇談会幹事長
佐藤 太紀 (株)エフエムもえる代表取締役
西 大志 苫前町商工会青年部副部長
堀松 一郎 萌志会(留萌建設協会二世会)会長
本間 櫻 国稀酒造(株)取締役企画室長
村山ゆかり 女性ネットワーク・るる会長

[帯 広]

- 梶沢 幸治 十勝地区農業協同組合青年部協議会会長
河西 智子 日本青年会議所北海道地区道東ブロック協議会直前会長
谷脇 正人 帯広青年会議所直前理事長
兵頭 正泰 帯広市川西農業協同組合青年部長
平位誠一郎 帯広青年会議所理事
山本 英明 北海道中小企業家同友会帯広支部地区会活性化委員会副委員長

[旭 川]

- 安住 太伸 旭川青年会議所専務理事
荒井 一洋 大雪山自然学校代表
荒井 保明 旭川建設業協会二世会会長
太田 仁志 JACK・IN・THE・BOX代表取締役
中原 浩一 北海道農協青年部協議会前参与
藤本多佳子 NPO法人グリーンステージ事務局長

[空 知]

- 植松 努 空知ビジネスサークル「そらび」サークルリーダー
植村 真美 そらち炭鉱(ヤマ)のまちファンクラブ事務局次長
土橋 祐之 助北海道農業企業化研究所企画部担当部長
濱本さおり NPO法人「きたむらKitchen」専務理事
松尾 吉洋 (株)マツオ常務取締役
村沢 克巳 日本青年会議所北海道地区道北ブロック協議会会長

(以上、開催順・敬称略50音順)

懇談会における意見交換

懇談会における意見交換の進め方としては、メンバーあるいはオブザーバーのうち毎回2～3名が自由なテーマで基調報告を行い、一人の基調報告～それについての意見交換という形式で交互に進められました。その際、問題提起や論点整理が明らかになるように「キーワード」を軸にした発言を行うことが確認されました。

基調報告のテーマは、観光、国際化、農業振興策、経済活性化策、少子高齢化、人口減少対策、防災、エネルギー・環境問題など多岐に渡りましたが、共通していえることは、北海道の現状における問題意識を持ちながらも、若手ならではの柔軟な発想による独自の視点からのアイデアやメッセージが込められていることでした。

基調報告を踏まえた意見交換においても、ポジティブで率直な意見が数多く集まりました。中でも特筆すべきは、3名の外国人の方の発言でした。「北海道は人口1千万人を受け入れるキャパシティがあるので、北海道独自の入管法を制定し、海外の人を呼び込む方策があるのでは。」などの日本人にはない独自の発想と切り口は、懇談会における意見交換をより活性化することとなりました。また、メンバーは全員が道産子というわけではありませんが、皆さんの意識には、北海道を愛する気持ちと、何か北海道の役に立ちたいという情熱を言葉のはしばしに感じ取ることができました。

こういった形で進められた懇談会ですが、メンバーは様々な分野で活躍され、多忙な方々であるにもかかわらず、全回を通じて平均9割を超える出席率であったことは、当懇談会における意見交換がいかに活発なものであったかを象徴しているといえます。

北海道の多様性～地域夢未来懇談会から

地域夢未来懇談会では、それぞれの地域の特性を反映した意見が出され、北海道の多様性を垣間見ることができました。以下に、そのほんの一部の要約を紹介します。

- ・網走の東京農大は、北海道よりも道外からの学生が多く集まっている。過疎化の進行する地域において彼らの感性や視点は非常に貴重である。
- ・空知らしい空間、田舎らしいリラックスできる空間をつくり、空知全体をテーマパーク的なものになりたいと考えている。
- ・十勝は都市と農村が共生している地域であり、まちと農村の交流が活発化することで相互の生活に豊かさをもたらすようになるのでは。
- ・苫小牧の産業を考えた時、空港と港をいかに有効利用していくか、流通の拠点としてどう活用していくかが大事。

懇談会提言書の取りまとめ

初回の懇談会において、メンバーの意見を主要項目ごとに整理し、提言書という形に取りまとめることが確認され、第7回以降の懇談会において具体的な意見交換が行われました。

提言書を取りまとめるに当たっては、当懇談会で出された意見だけではなく、地域夢未来懇談会、国民の方々から寄せられた意見・提言からも意見を集約し、「キーワード」「キーセンテンス」ごとに分類・整理を行い、取りまとめることとなりました。

また、提言書だけではなく、人々にインパクトを与える読みやすいリーフレットを作成するなどのアイデアがメンバーから提案され、具体的な検討を行いました。

懇談会において基調報告と意見交換を行った後の残り時間だけでは、取りまとめに関する詳細な検討は不可能でした。このため、座長からの提案を受けメンバーのうち有志5名の方が忙しい中、時間を割り取りまとめに関する検討会を行い、「キーワード」をビジュアル化したイメージをリーフレットに掲載するなどのアイデアが出され、提言書とリーフレットの原案がまとめられました。

その原案を基に様々な調整が図られた上、第10回懇談会において提言書が了承され、田村座長から吉田義一北海道開発局長に提言書が手交されました。

懇談会提言の内容

懇談会では、30年後の夢のある北海道を実現するために、「まずは行動しよう」を基本に、「現状」「特色」「行動」の3つの視点から、10項目35の「キーワード」により提言を整理しました。

以下は、10項目の提言内容です。

〈まずは行動しよう〉

【現状】

1 「強みと弱みを知ろう！」

北海道の夢未来を考える際に、北海道の「強み」と「弱み」についてしっかりと現状認識する必要があります。

2 「潜在力を引き出そう！」

次に、あまり表に出ていない北海道の潜在力というものをいかに引き出すかが重要です。北海道の「美しさ」は得難い力であり、差別化を図るための「オンリーワン」を育てること、そして世界都市としての「Sapporo City」が魅力的であることは北海道にとって大きな力です。

3 「ブランドを磨こう！」

一方で、既に顕在化している北海道のブランド力を伸ばしていくことも大いに必要であり、やはり「食」と「観光」が柱になります。そしてそのクオリティが重要です。

【特色】

4 「『食』を育てよう！」

北海道の「食」には、様々な文化、歴史、そして「パワー」があります。そして「本物にこだわり」、その本物を「世界へ発信」していく必要があります。さらに「食」を北海道ブランドにするのであれば、その生産現場から流通、消費に至るまでに関係する産業（「食」業）は、やはり「かっこよく」ありたいと思います。

5 「美しい自然、環境を引き継ごう！」

もう一つのブランドである「観光」の素材となる北海道の自然、環境は、まぎれもなく「アジアの宝」です。大自然に流れる「ゆったりとした時間」は北海道ならではの貴重なものであり、そこから生まれる「クリーンエネルギー」を存分に享受することが可能です。このような恵まれた環境を道外、海外の方々に愛していただき「ファン」になってもらいましょう。

6 「白い冬を楽しもう！」

また、北海道と切り離せないのが「冬」です。世界に寒い地域はたくさんありますが、雪の多い「白い冬」は意外と希少価値があるのです。そこに、雪や寒さを活用していく「知恵」が生まれ、冬は「快適」なのだということを再認識することになります。そして道民一人一人が「冬があってこそ北海道」なのだという意識を持つようではありませんか。

7 「まちのスタイルを創ろう！」

さて視点を変えて北海道の未来のまちづくりについて考えてみましょう。「食」にこだわる地域、「自然」にこだわる地域、「安全・安心」にこだわる地域といろいろありますが、それぞれの地域が個性ある「ビジョン」を持ち、人々が「にぎわう」まちを創っていきましょう。

【行動】

8 「アンビシャスを集めよう！」

北海道の夢未来について議論は尽きませんが、とどのつまり鍵は「人」にあるのではないのでしょうか。道内はもちろんのこと道外や海外から、こだわりや「アンビシャス」をもった人が集まり活

躍できる場を創りましょう。海外とも対等に「コミュニケーション」を図ることができる彼らは「21世紀の開拓者」と言えるのではないのでしょうか。そして、やはり「人が人を魅きつける」、その積み重ねで魅力あるコミュニティが形成されていくのだらうと思います。

9 『協働と連携』を進めよう！

次に、魅力ある人材が地域で活動していく際のキーワードを3つ掲げました。まず最初に言い古されたフレーズですが「脱官依存」です。そして企業と企業、民間と行政、地域と地域、人と人の「コラボレーション」が原動力となって地域が活性化していきます。そこで投下された資金は地域のネットワークの中で「循環」させていかなければなりません。

10 「今日から始めよう！」

最後は「行動」です。まずは、道民が行動を起こす際の方向性を明確にするための「目標を立てる」こと、二つ目は、道民が同じ将来像を描くという意味で「30年後を共有する」こと、そして最後は、北海道夢未来懇談会に参集したような若者が動かなければ何も始まらない、という意味で「まず我々が動く」ことです。

これら3つの視点10項目35の「キーワード」をイメージにしたものが次の図です。

この提言書を北海道の未来を考える全ての方に見ていただき、多くの

人が夢を語り、広げていくためのツールとして利用していただくことを期待するとともに、北海道開発局としても、こうした提言を、行政の一つの基本としてとらえ、様々な分野・世代の方々との積極的な協働・連携を通じて、効率的・効果的な事業執行に努めていきたいと考えています。

懇談会の議事概要等及び取りまとまった北海道夢未来懇談会提言書「夢未来北海道～夢を実現する35の鍵～」は、北海道開発局のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.hkd.mlit.go.jp>

☆『35 Steps to the Future
夢を実現する35の鍵』

